

第107期 中間株主通信

2021.4.1 — 2021.9.30

INDEX

株主の皆様へ	1
決算ハイライト	3
トピックス	5
会社情報／株式情報	6

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第107期上期(2021年4月1日から9月30日まで)の経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。今後も引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

朝倉 研二



Q

上期の概況をお聞かせください。

A

売上総利益以下の段階利益すべてにおいて、第2四半期連結累計期間における過去最高値を更新しました。

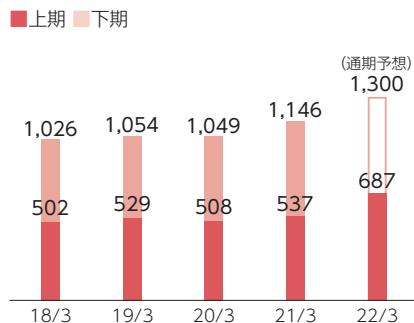
上期の世界経済は、中国では堅調な需要が続き、米州や欧州では規制解除による経済活動の回復があったものの、アセアンでは再び感染が拡大し規制が強化されるなど、地域ごとに濃淡が見られました。日本経済は、ワクチン接種は大きく進みましたが、オリンピックを無観客で開催するなど、緊急事態宣言の継続による活動制限が続きました。このような

状況ではありましたが、自動車関連の復調に加え、樹脂およびエレクトロニクス関連、米国Prinovaグループのニュートリション関連ビジネスは好調に推移しました。

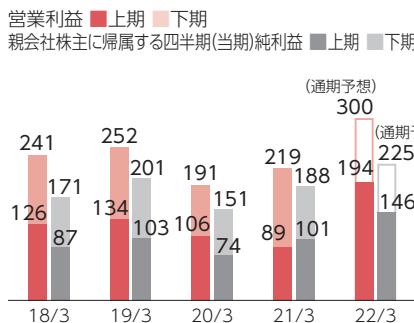
その結果、上期における業績は、国内の売上総利益は352億円(前年同期比+18.5%)、海外は334億円(同+39.4%)となり、全体で687億円(同+27.8%)となりました。営業利益は194億円(同+118.2%)、経常利益は204億円(同+111.2%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期の政策保有株式の売却益が減少したものの、経常利益までの大幅な増益を受けて146億円(同+43.5%)となり、売

5カ年推移 (2018年3月期~2022年3月期)

売上総利益 (億円)



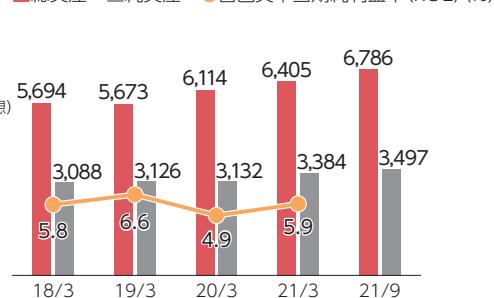
営業利益・純利益 (億円)



総資産・純資産 (億円)



●自己資本当期純利益率(ROE) (%)



上総利益以下のすべての段階利益において第2四半期連結累計期間の過去最高値を更新しました。

Q 通期の見通しはいかがですか？

A 不透明な状況が続きますが、増収増益を見込んでいます。

上期は、先述のとおり、樹脂およびエレクトロニクス関連ビジネスを中心として業績は好調に推移し、第1四半期終了時点で業績見通しの上方修正を行いました。一方、下期は活動制限緩和による食品関連ビジネスの需要回復が期待されますが、樹脂関連ビジネスをはじめとした原材料市況の軟化や、巣ごもり需要の一巡によるエレクトロニクス関連ビジネスの需要減退、加えて、半導体、部品等の供給不足に起因する自動車生産台数の減少懸念など、不透明な状況が継続しており、現時点では、第1四半期終了時点で上方修正した業績見通しを変更しておりません。業績としては、売上総利益1,300億円(前年同期比+13.4%)、営業利益300億円(同+36.9%)、経常利益310億円(同+35.6%)、親会社株主に帰属する当期純利益225億円(同+19.5%)を見込んでいます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 新中期経営計画**ACE 2.0**をスタートし、更なる成長を目指します。

当社は、創業200年である2032年の「ありたい姿」として、“温もりある未来を創造するビジネスデザイナー”を掲げています。その「ありたい姿」の実現に向けて、今年度から、5ヶ年計画となる新中期経営計画**ACE 2.0**をスタートさせました。

ACE 2.0の5ヶ年を「質の追求」を進める期間と位置づけ、「企業風土の変革」と「収益構造の変革」を柱として掲げています。

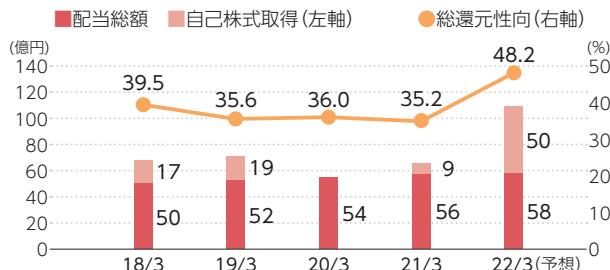
「企業風土の変革」では、サステナビリティを追求する組織とマインドの醸成や、事業活動にかかる効率性の追求、変革を推進する人財の強化を目指します。

「収益構造の変革」では、収益性・効率性の追求、既存事業の強化に加え、“持続可能な事業”(N-Sustainable事業)の創出に取り組みます。N-Sustainableの事業領域として「環境・エネルギー」「次世代通信関連」「ライフ&ヘルスケア」を定めており、代理店業、製造業に加え、AIを活用したSaaS事業など、当社の強みを活かした様々なビジネスモデルで社会に貢献していきます。

さらにこれらの変革を支える機能として、DXの更なる加速や、サステナビリティの推進、コーポレート機能の強化を図ります。特に、DXについてはNAGASE独自のプラットフォームの構築を目指すものであり、その施策の1つとしてデジタルマーケティングを推進することで、市場との接点を広げ、当社独自のソリューションを提供するベースとなることを期待しています。

株主の皆様におかれましては、当社グループの将来性にご期待いただき、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主還元状況



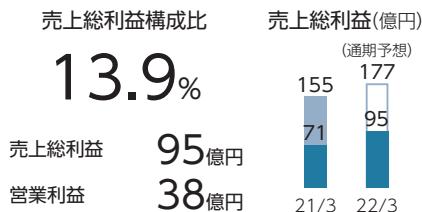
1株当たり 配当額	中間	17円	18円	22円	22円	24円
	期末	23円	24円	22円	24円	24円
	計	40円	42円	44円	46円	48円

決算ハイライト

セグメント別概況



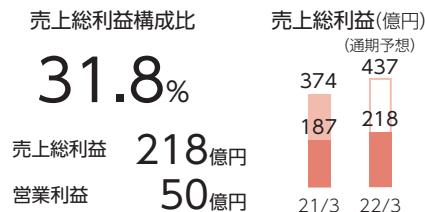
機能素材



上期の状況

自動車生産台数の回復を受け、塗料・ウレタン原料や、加工油剤関連・樹脂関連の原料販売が増加し、加えて、半導体関連等の電子業界向けの販売が堅調。

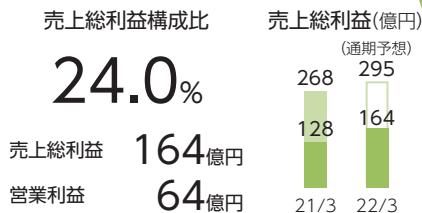
生活関連



上期の状況

ニュートリション関連ビジネスの素材販売、製造加工が好調に推移。トレハ®等の食品素材、AA2G®等の香粧品素材や中間体・医薬品原料の販売が増加。

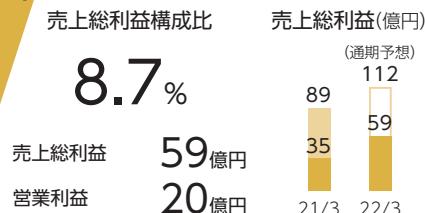
加工材料



上期の状況

情報印刷関連材料、導電材料等の販売は減少。OA・ゲーム機器業界向け樹脂ビジネスは、国内および中国を中心とした海外での需要増加に加え、市況の高騰の影響により好調。

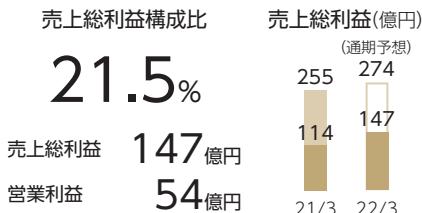
モビリティ



上期の状況

内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加、また国内およびアセアンを中心とした海外における樹脂ビジネスの販売が増加。さらに市況の高騰により収益性が改善。

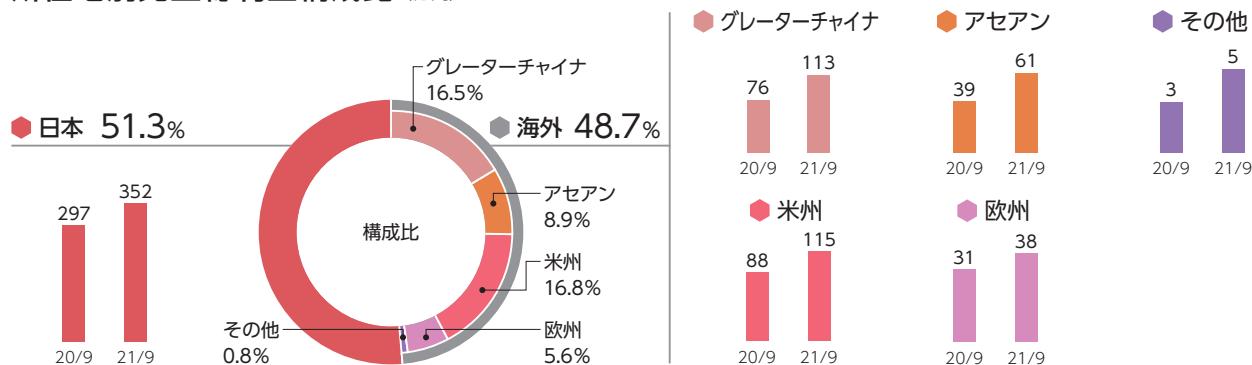
電子・エネルギー



上期の状況

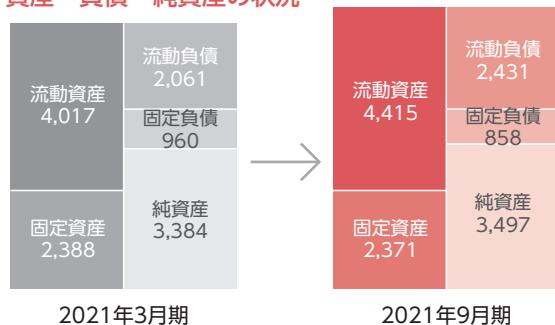
ディスプレイ関連材料および半導体用途の精密加工関連、またモバイル機器および半導体用途等を中心とした変性エポキシ樹脂の販売が増加。

所在地別売上総利益構成比 (億円)

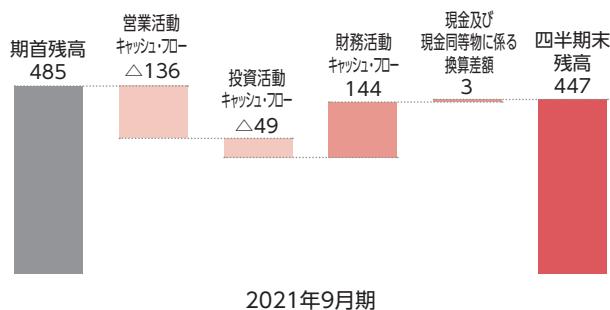


連結財務諸表サマリー (億円)

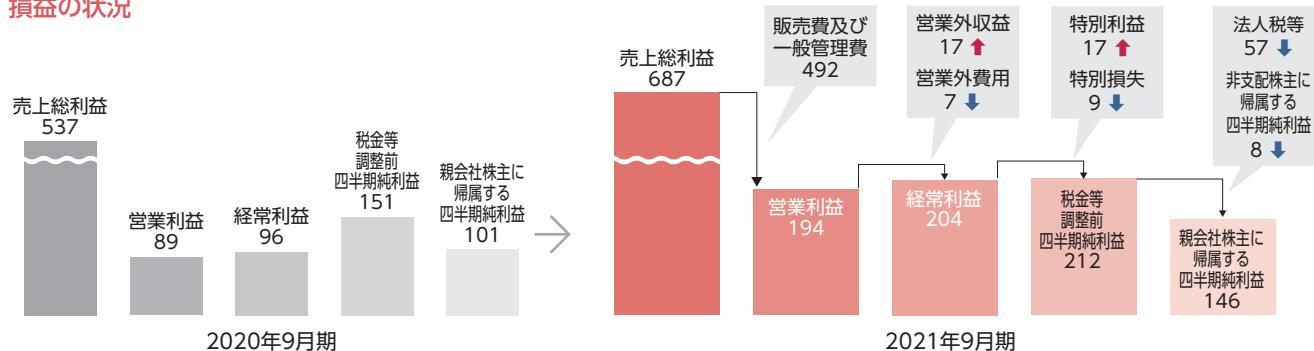
資産・負債・純資産の状況



キャッシュ・フローの状況



損益の状況





三洋化成と当社共同での「匂いセンサー」事業化



当社は三洋化成工業株式会社(以下、三洋化成)と共同で「匂いセンサー」について事業化を検討することで合意しました。「匂いセンサー」は、特定の匂いを識別、定量化するデジタル嗅覚技術です。事業化を検討する「匂いセンサー」は、人間の嗅覚細胞に相当する物質(プローブ)に香り分子が吸着することにより匂いを検知し、AIが機械学習を通じて様々な匂いの香り分子の組み合わせパターンを検知します。当社は、プローブから得られたデータ処理を含むセンサーシステムの設計と、顧客ニーズに沿った分析結果を提供する新規DXビジネスの構築を目指します。

事業化に向けて、まずは日本酒の醸造工程における品質管理と、香り成分の管理・計測や分析を通じた新商品開発への活用を目指します。さらに、当社の国内外に有する顧客ネットワークを活用し、食品、医療、化粧品や工場での環境対応などの様々な分野に広がっていきます。



米国Prinovaグループによる甘味料ディストリビューターの子会社化

当社の子会社で食品素材の販売・加工製造を展開する米国 Prinova Group, LLC(以下、Prinova社)は、食品業界向けに甘味料販売を手掛ける米国The Ingredient House, LLC(以下、TIH社)を子会社化いたしました。

TIH社は、世界各国の大手食品メーカーや飲料メーカー向けに、エリスリトール、キシリトールなどの糖アルコール、スクラロースなどの高甘味度甘味料を中心とした甘味料群を販売しています。TIH社の子会社化により、ビタミンやアミノ酸などを含む約2,000種のPrinova社の取り扱い素材がさらに充実します。幅広い製品ポートフォリオを活かすことで、食品素材の販売や受託製造における提案の幅が広がることが期待されます。加えて、TIH社の顧客ネットワークが加わることで、大手食品メーカーや飲料メーカーへPrinova社の製品を提案する機会が生まれ、食品素材事業の更なる拡大が期待されます。

今後も、資本効率性を意識しつつ、積極投資を行うとともに、NAGASEグループのシナジーを向上させ、持続的な事業拡大を目指します。



アイエンス社 第47回 優秀環境装置表彰 中小企業庁長官賞受賞

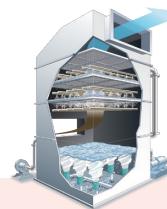
当社の関連会社で排水・排ガス処理装置等の開発・設計等を手掛ける株式会社アイエンス(以下、アイエンス社)の排ガス処理装置「デオライザー」が、「第47回 優秀環境装置表彰」(主催：一般社団法人日本産業機械工業会)の中小企業庁長官賞を受賞しました。

「デオライザー」は装置内部に水の膜を形成することにより排気ガスの汚染物質を捕捉し取り除く装置であり、従来の装置で課題とされていた、臭気成分の捕捉性、メンテナンス性、設備の大きさ、捕捉した有機物等の腐敗などの課題を解決できることから、環境負荷低減や生産性の向上が期待されています。

NAGASEグループは、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会の実現」への貢献をビジョンとして掲げており、より良い社会の実現のために価値を提供し続けます。



株式会社アイエンス
代表取締役社長 吉田 憲史

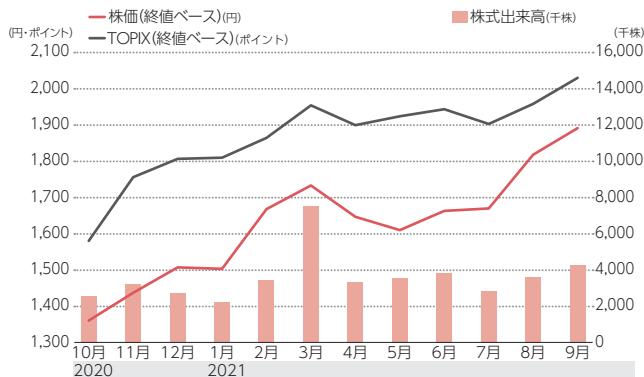


排ガス処理システム
「デオライザー」

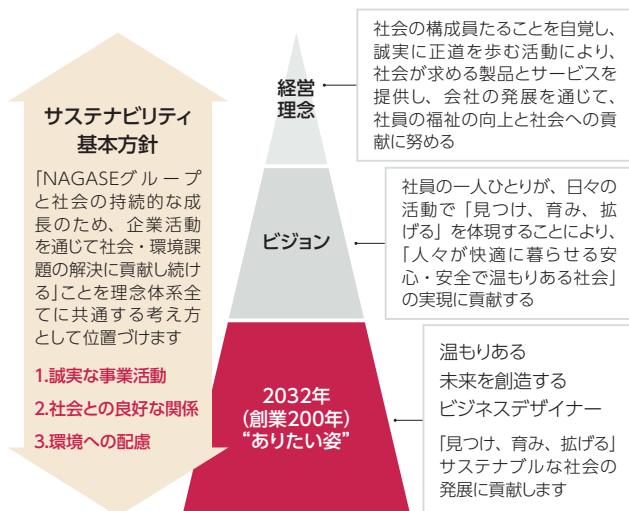
会社概要

商号	長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.
創業	1832年(天保3年)6月18日
設立	1917年(大正6年)12月9日
資本金	9,699百万円
主要な事業所	大阪本社、東京本社、名古屋支店、 ナガセR&Dセンター(兵庫県神戸市)、 ナガセアプリケーションワークショップ(兵庫県尼崎市)

株価／出来高の推移 (2020年10月1日～2021年9月30日)



理念体系



株式の状況

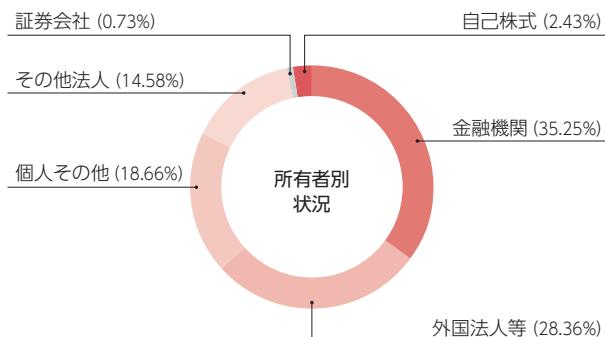
発行済株式の総数	124,408,285株
株主数	24,963名

大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,026	12.38
三井住友信託銀行株式会社	5,776	4.76
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	5,312	4.38
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,550	3.75
株式会社三井住友銀行	4,377	3.61
日本生命保険相互会社	3,589	2.96
長瀬令子	3,519	2.90
長瀬産業自社株投資会	3,023	2.49
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	2,920	2.41
株式会社長瀬舜造	2,688	2.21

※ 持株比率は自己株式(3,018,081株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(照会先URL) <https://www.smb.jp/personal/procedure/agency>

公告方法 電子公告の方法により、当社ウェブサイトにて行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数 100株
株主に対する特典 毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元以上保有の株主を対象に、保有期間に応じて、カタログギフトを贈呈。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

○ 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

○ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

2021年度企業広告

2019年度、2020年度に引き続き日本在住のイラストレーター、イリヤ・クブシノブ(Ilya Kuvshinov)氏のイラストを採用しております。「挑もう。前例なんか、いらない。」をテーマに、「化学系専門商社」という枠を超え、自由な発想、新しい技術でビジネスをデザインし、お取引先様にNAGASEならではの価値をご提供していく強い決意を表しています。



当社の社員であり、ブライドルランナーとして活躍する和田伸也選手は2021年8月に男子1,500m(T11)、同年9月にはマラソン(T11)でアジア新記録を更新しました。「常識を、疑え。」という力強い言葉とともに、挑戦を続ける和田選手とNAGASEグループの決意を表しています。私たちは、スポーツやアスリートへの支援を通じて、社会貢献に寄与する存在でありたいと考えます。

本冊子掲載情報の詳細については当社ウェブサイトをご参照ください

<https://www.nagase.co.jp/> 長瀬産業 検索

